

受賞者の声

の解決の糸口になればという想いのもとスタートしたものです。私の扱う金属錯体は、有機合成化学から錯体化学と幅広い知識と技術が必要なものです。それ故に、乗り越えることが非常に困難な壁もいくつもありました。しかし、だからこそ、失敗を繰り返していくうちに、私は金属錯体にこの重要課題を解決できる可能性を感じていきまし

た。研究を開始してから2年以上経過し、この度、受賞できたことは、諦めずに信じて研究に打ち込んだ成果だと感じています。また、分子科学研究所という優れた人材、設備が整った環境で、先生方、諸先輩のご助言ご協力があったからこそ、今があるものと感じています。

現在は、アカデミックの世界からは

離れ、企業研究所にて、新エネルギー創造のための研究に全力で取り組んでいます。今いる環境は以前と異なっていますが、私の目指すものはいつも一つであり、変わりません。この度の受賞と、それに至るまでの経験を糧として、これからも科学者として、研究活動に邁進していきたいと思っています。

吉田 将己 (特別共同利用研究員)

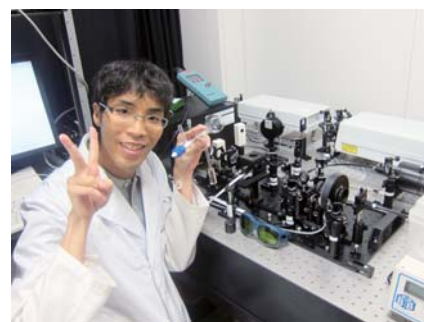
第2回CSJ化学フェスタ優秀ポスター賞

昨年10月14～17日に東京工業大学で行われた第2回CSJ化学フェスタ2012におきまして、「ルテニウム単核錯体を触媒とする水からの酸素発生反応」という題目で優秀ポスター賞をいただきました。

私はこれまで、講演題目にもありますようにルテニウム錯体を用いて水を酸化し、酸素を発生させるという研究を行ってきました。酸素は空気中にたくさん存在するため「なぜ酸素をわざわざ作るのか?」ということはよく聞かれますが、酸素発生は人工光合成を達成し、エネルギー問題を解決するためにとっても重要で、かつ難しい反応な

のです。この酸素発生を効率的に行うための触媒を開発し、その反応メカニズムを詳しく解明したのが私の研究です。

この学会が行われた当時、私は博士後期課程3年で、おそらくこれが博士論文提出前の最後の大きな学会になるだろうと予想しました。そこで、この学会で学生生活の集大成としての発表ができるよう心がけました。特に、本学会が産学連携を掲げる学会であったことから、これまで以上に「なぜこのような研究を行うのか?」「短期的・長期的な展望は何か?」という点を重要視しました。その結果、聞きに来て



下さった方々に楽しんでいただき、また賞までいただけたことをとても嬉しく、光栄に思います。

最後になりましたが、この研究を支えてくださった分子研の正岡重行准教授、近藤美欧助教、九州大学の酒井健教授、および後輩の皆様方に深く感謝申し上げます。

平成24年度3月総合研究大学院大学修了学生及び学位論文名

専攻	氏名	博士論文名	付記する専攻分野	授与年月日
構造分子科学	郭 浩	Investigation of measurement conditions of surface-enhanced infrared absorption spectroscopy and its application to membrane proteins	理 学	H25. 3.27
	三宅 伸一郎	新規高輝度狭帯域レーザーによるコヒーレント分布操作	理 学	H25. 3.27
機能分子科学	石山 仁大	Design of the Energy Structures of Photovoltaic Organic Co-deposited Films by Impurity Doping	理 学	H25. 3.27

総合研究大学院大学平成25年度(4月入学)新入生紹介

専攻	氏名	所属	研究テーマ
構造分子科学	深津 亜里紗	生命・錯体分子科学研究領域	金属錯体の光励起状態における電気化学的挙動の探究
	深堀 由季乃	生命・錯体分子科学研究領域	窒素有する金属錯体の酸化還元化学の探究
	劉 柯	生命・錯体分子科学研究領域	多電子移動を触媒する金属クラスターの合成と性能評価
	GAO, Jia	物質分子科学研究領域	二次元高分子の合成と構造物性に関する研究
	正井 航平	協奏分子システム研究センター	不飽和共役ポリエン系不飽和炭化水素類を用いた、パラジウムクラスターの合成と解明
機能分子科学	王 進政	岡崎統合バイオサイエンスセンター	有機合成手法を活用した糖鎖の構造・機能解析